

4階の一般病棟を地域包括ケア病棟に変更しました

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。

65歳以上の人口は、現在3,000万人を超えており（国民の約4人に1人）、2042年の約3,900万人でピークを迎え、その後も75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。

このような状況の中、団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年（平成37年）以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。

このため厚生労働省では、2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的で、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しており、当院でも平成26年度の診療報酬改定に合わせて、5月1日より4階を「地域包括ケア病棟（40床）」に変更致しました。

これからも急性期病院や地域の医療・介護施設との連携・役割分担を進めながら、地域医療にこれまで以上に貢献できるよう努力してまいります

地域包括ケア病棟の役割



参照 厚生労働省HPより

地域包括ケア病棟について見学やお問合せを頂きました

6月26日（木）施設見学の為、玉名地域保健医療センター様が来院されました。当院が5月に施設基準を取得した「地域包括ケア病棟」について、見学と質疑を行いたいとのことでした。施設見学の前には現場での取り組みや申請までの苦労など、お互いに情報交換をさせて頂きました。



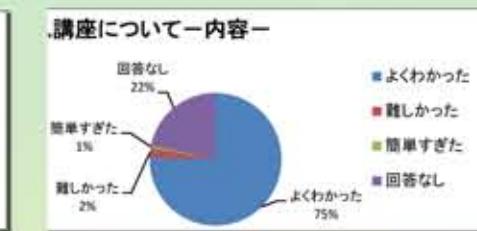
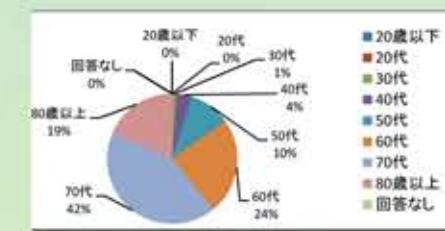
その後は病棟やサービス付高齢者向け住宅ホスピタウンハウスも見学頂きました。この他にも他県より地域包括ケア病棟についての問合せなどを頂いております。今回の診療報酬改定では2014年9月末までに亜急性期入院医療管理料が廃止となります。その新たな評価としてこの病棟が急性期医療と在宅との間の橋渡し機能を有する病棟として、全国的な関心の高さを感じています。



topics

「ひざの健康教室」で講師を務めました

5月24日（土）くまもと県民交流館パレアにて開かれた「ひざの健康教室」で、当院の整形外科部長の山口浩司医師と理学療法士柴田哲成が講師として招かれ、膝の痛みの原因や、ひざ痛予防体操、最新の治療法などを説明させて頂きました。当日は定員を上回る220名程の来場者がいました。プログラム終了後には質問もたくさんいただき、盛況のうちに終了しました。

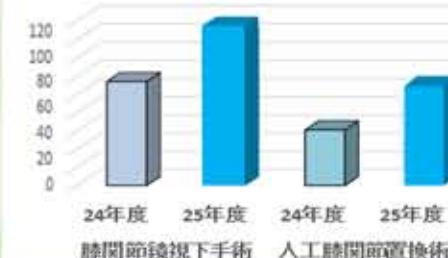


↑ 講演会でのアンケート結果 ↑

当院の手術・手術後の体制について

当院には手術室が2室あり、整形外科のほか泌尿器科や皮膚科の手術を行っております。特に整形外科では関節鏡視下（内視鏡）手術（112件中膝106件/年）や人工関節置換術（70件中膝60件/年）の手術数も増加しております。

手術件数比較



→当院での膝に関する手術実績

人工関節手術後は専門の理学療法士や作業療法士がより早く日常生活に戻れるようラピッドリカバリープログラムを用い、チーム一丸となって復帰に向けたサポートを行います。退院された患者さんからは「外出が再びできるようになって良かった」などQOL（生活の質）が向上したとのご意見も頂いております。



ホスピタウンハウスの家族会で淨瑠璃のミニ講演を行って頂きました

6月13日当院のサ高住（特定施設）ホスピタウンハウスで入居者ご家族さまに向けた家族会を開催しました。現在の状況や今後の取り組みなどをご説明した後、入居者の家族様からもご意見を頂きました。その後皆で清和文楽様の淨瑠璃の出張ミニ講演を観覧しました。人形の操作だけでなく、男女の声の使い分けなども教えて頂きました。



人間ドック お誕生日割引のご案内

地域の皆様の健康づくりのため、健診センターでは、4月よりコースのリニューアルを行いました。

全コースで採血を実施するなど内容を更に充実、人間ドック（日帰り）はお誕生日割引（¥38,880→¥34,000 税込）も行っております。ご利用ください。

※当健診センターは協会けんぽや熊本県市町村共済組合、特定健診の実施機関になっております。

詳しくは健診センター TEL 096-357-0435（直通）迄



人間ドックの昼食も人気です